

# **Document made available under the Patent Cooperation Treaty (PCT)**

International application number: PCT/JP04/017886

International filing date: 01 December 2004 (01.12.2004)

Document type: Certified copy of priority document

Document details: Country/Office: JP  
Number: 2004-227992  
Filing date: 04 August 2004 (04.08.2004)

Date of receipt at the International Bureau: 04 February 2005 (04.02.2005)

Remark: Priority document submitted or transmitted to the International Bureau in compliance with Rule 17.1(a) or (b)



World Intellectual Property Organization (WIPO) - Geneva, Switzerland  
Organisation Mondiale de la Propriété Intellectuelle (OMPI) - Genève, Suisse

日本国特許庁  
JAPAN PATENT OFFICE

02.12.2004

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

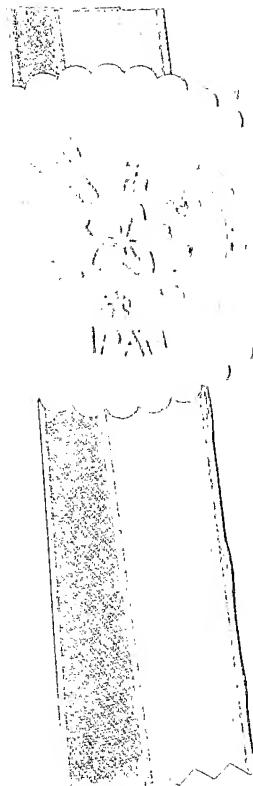
This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日      2004年  8月  4日  
Date of Application:

出願番号      特願2004-227992  
Application Number:

[ST. 10/C] :      [JP2004-227992]

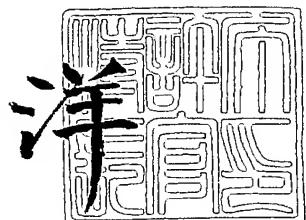
出願人      扶桑薬品工業株式会社  
Applicant(s):      岡久 稔也



2005年  1月 21日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

小川



【書類名】 特許願  
【整理番号】 194620  
【提出日】 平成16年 8月 4日  
【あて先】 特許庁長官殿  
【国際特許分類】 A61J 1/14  
【発明者】  
  【住所又は居所】 徳島県徳島市北田宮 2-1-51  
  【氏名】 岡久 稔也  
【特許出願人】  
  【識別番号】 000238201  
  【住所又は居所】 大阪府大阪市中央区道修町1丁目7番10号  
  【氏名又は名称】 扶桑薬品工業株式会社  
【特許出願人】  
  【識別番号】 503443094  
  【住所又は居所】 徳島県徳島市北田宮 2-1-51  
  【氏名又は名称】 岡久 稔也  
【代理人】  
  【識別番号】 100084146  
  【弁理士】  
  【氏名又は名称】 山崎 宏  
  【電話番号】 06-6949-1261  
  【ファクシミリ番号】 06-6949-0361  
【選任した代理人】  
  【識別番号】 100100170  
  【弁理士】  
  【氏名又は名称】 前田 厚司  
  【電話番号】 06-6949-1261  
  【ファクシミリ番号】 06-6949-0361  
【選任した代理人】  
  【識別番号】 100122943  
  【弁理士】  
  【氏名又は名称】 岡崎 博之  
  【電話番号】 06-6949-1261  
  【ファクシミリ番号】 06-6949-0361  
  【連絡先】 担当  
【手数料の表示】  
  【予納台帳番号】 204815  
  【納付金額】 16,000円  
【提出物件の目録】  
  【物件名】 特許請求の範囲 1  
  【物件名】 明細書 1  
  【物件名】 図面 1  
  【物件名】 要約書 1

**【書類名】特許請求の範囲****【請求項 1】**

輸液バッグのバッグ本体の一方の壁部に当接される閉塞補助具と、前記輸液バッグのバッグ本体の他方の壁部から前記閉塞補助具を挟持して前記バッグ本体内部を閉塞するクリップ部材とからなる仕切手段と、

前記クリップ部材の挟持を解除する挟持解除操作具とで構成される輸液バッグ用仕切具。

**○【請求項 2】**

前記閉塞補助具は、棒状部材で構成され、

前記挟持解除操作具は、略U字状の硬質の剛性材料で構成され、前記閉塞補助具と前記クリップ部材の間に配置されていることを特徴とする、請求項1記載の輸液バッグ用仕切具。

**【請求項 3】**

前記閉塞補助具は、棒状部材で構成され、

前記挟持解除操作具は、環状の柔軟性材料で構成され、前記バッグ本体の他方の壁部に沿って巻きつけられ、前記バッグ本体の2つ折りにした状態を解除する破断部を有することを特徴とする、請求項1記載の輸液バッグ用仕切具。

**【請求項 4】**

前記閉塞補助具は、薄肉部で折り畳み可能に連結された一対の半割棒状部材で構成され、

前記挟持解除操作具は、前記閉塞補助具の両端にそれぞれ一体的に形成された一対の硬質の剛性材料で構成されていることを特徴とする、請求項1記載の輸液バッグ用仕切具。

**【請求項 5】**

前記クリップ部材は、挟持部に貼着された警告シートを備えることを特徴とする、請求項1記載の輸液バッグ用仕切具。

【書類名】明細書

【発明の名称】輸液バッグ用仕切具

【技術分野】

【0001】

本発明は、輸液バッグに用いられる仕切具に関する。

【背景技術】

【0002】

従来、輸液バッグに異なる未混合薬剤を充填する場合、解除可能な仕切手段を用いて輸液バッグの内部を複数に区画する必要があり、前記仕切手段のひとつとして、棒状部材とクリップ部材とで構成された仕切具が公知である。かかる仕切具には、輸送時等に棒状部材がクリップ部材から抜け落ちてバッグ本体内部の未混合薬剤が混合することができないように、クリップ部材に設けられた係止部と、棒状部材に設けられた引掛け部とを係合させるものや、棒状部材に設けられた引掛け部を、バッグ本体の融着部分に形成された孔部に挿入係止するものがある（例えば、特許文献1又は特許文献2参照。）。

【特許文献1】特許第2511447号公報

【特許文献2】特許第2511448号公報

【0003】

しかしながら、前記のような従来の仕切具では、クリップ部材の挟持力が強い場合には、棒状部材をクリップ部材から容易に取り外すことができず、薬剤の混合作業に時間を要するという問題点がある。

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

したがって、本発明は、かかる問題点を解消するため、クリップ部材の挟持力の強弱に関係なく、輸液バッグのバッグ本体の一方の壁部に当接される閉塞補助具を容易に取り外すことができる輸液バッグ用仕切具を提供し、薬剤の混合作業を円滑に行うことを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0005】

前記課題を解決するための手段として、本発明は、輸液バッグのバッグ本体の一方の壁部に当接される閉塞補助具と、前記輸液バッグのバッグ本体の他方の壁部から前記閉塞補助具を挟持して前記バッグ本体内部を閉塞するクリップ部材とからなる仕切手段と、前記クリップ部材の挟持を解除する挟持解除操作具とで構成されたものである。

【0006】

前記閉塞補助具は、棒状部材で構成され、前記挟持解除操作具は、略U字状の硬質の剛性材料で構成され、前記閉塞補助具と前記クリップ部材の間に配置されていてもよい。

【0007】

前記閉塞補助具は、棒状部材で構成され、前記挟持解除操作具は、環状の柔軟性材料で構成され、前記バッグ本体の他方の壁部に沿って巻きつけられ、前記バッグ本体の2つ折りにした状態を解除する破断部を有していてもよい。

【0008】

前記閉塞補助具は、薄肉部で折り畳み可能に連結された一対の半割棒状部材で構成され、前記挟持解除操作具は、前記閉塞補助具の両端にそれぞれ一体的に形成された一対の硬質の剛性材料で構成されていてもよい。

【0009】

前記クリップ部材は、挟持部に貼着された警告シートを備えていてもよい。

【発明の効果】

【0010】

前記手段によれば、クリップ部材の挟持力の強弱とは無関係に、挟持解除操作具を用いて閉塞補助具をクリップ部材から取り外すことができ、薬剤の混合作業を円滑に行うこと

ができる。

**【発明を実施するための最良の形態】**

**【0011】**

以下、添付の図面に従って、本発明の実施形態を説明する。

**【0012】**

図1は、本発明の第1実施形態に係る輸液バッグ用仕切具1を構成する部材を分解して示したものである。この輸液バッグ用仕切具1は、仕切手段2と、剛性材料で構成された挟持解除操作具7とで構成される。

**【0013】**

仕切手段2は、クリップ部材3と、棒状部材で構成された閉塞補助具6とからなる。クリップ部材3は、弾性を有する剛性材料で構成され、バッグ本体21の一方の壁部22に当接した棒状の閉塞補助具6を他方の壁部23から挟持して輸液バッグ20のバッグ本体21の内部を閉塞する。クリップ部材3は、横断面の形状が略C字状に形成され、挟持部4と、該挟持部4の内側に形成された挟持空間5とで構成されている。クリップ部材3は、弾性力を有するものであれば、鉄等の金属で構成されていてもよいが、取り扱いの安全性を考慮すると、弾性プラスチック材で構成されるのが好ましい。

**【0014】**

棒状の閉塞補助具6は、横断面の形状が円形に形成された合成樹脂で構成される。棒状の閉塞補助具6は、図2に示したように、後述の輸液バッグ20のバッグ本体21の一方の壁部22に当接した状態でクリップ部材3の挟持部4に挟持される。棒状の閉塞補助具6は、バッグ本体21の一方の壁部22に接着剤等で、一体的に固定されてもよい。

**【0015】**

挟持解除操作具7は、細長帯状に形成された硬質の剛性材料を湾曲させて、略U字状に形成されている。挟持解除操作具7は、図2に示したように、棒状の閉塞補助具6が当接する一方の壁部22とは反対側の他方の壁部23に当接した状態で、クリップ部材3の挟持部4に挟持される。挟持解除操作具7は、硬質のものであれば、鉄等の金属で構成されていてもよいが、取り扱いの安全性を考慮すると、プラスチック材で構成されるのが好ましい。

**【0016】**

輸液バッグ20は、図4に示したように、バッグ本体21の周辺部に形成された周辺強シール部24を備える。周辺強シール部24は、バッグ本体21を構成する2枚のフィルムシートの周辺部の内表面が、口栓30の薬剤排出管31を挟持した状態で加熱溶着されて形成される。口栓30は、筒状で、薬剤排出管31と、中空針が刺通されるまでゴム栓で密封された薬剤排出口32とで構成されている。輸液バッグ20は、中央から左右に一定の間隔をあけて形成された仕切補助シール部25と、該仕切補助シール部25の間に形成された連通部26とを備える。仕切補助シール部25は、バッグ本体21を構成する2枚のフィルムシートの中央から左右に一定の間隔をあけた内表面が、加熱溶着されて形成されている。連通部26の開口幅は、前記挟持解除操作具7の幅より狭く構成されている。

。

**【0017】**

第1実施形態に係る輸液バッグ用仕切具1を用いて輸液バッグ20のバッグ本体21の内部を仕切る場合、まず、仕切補助シール部25及び連通部26に沿って棒状の閉塞補助具6をバッグ本体21の一方の壁部22に当接させる。次に、棒状の閉塞補助具6の当接位置で、一方の壁部22を内側にしてバッグ本体21を2つ折りにする。次に、挟持解除操作具7の湾曲部8が連通部26に位置するように、挟持解除操作具7をバッグ本体21の他方の壁部23に当接させる。次に、棒状の閉塞補助具6及び挟持解除操作具7の湾曲部8を当接させた位置で、輸液バッグ20のバッグ本体21をクリップ部材3の挟持空間5に挿入して、クリップ部材3の挟持部4で挟持する。

**【0018】**

輸液バッグ用仕切具1を輸液バッグ20に取り付けてバッグ本体21の内部を仕切った

後、口栓 30 の薬剤排出口 32 及び口栓 30 とは反対側の端部に形成された薬剤充填口 27 から各未混合薬剤を充填する。次に、薬剤排出口 32 をゴム栓体で密閉し、また、薬剤充填口 27 も加熱溶着して密閉し、各未混合薬剤を封入する。

#### 【0019】

次に、本発明の第1実施形態に係る輸液バッグ用仕切具1を使用する場合の作用について説明する。

#### 【0020】

輸液バッグ用仕切具1が輸液バッグ20に取り付けられている場合、図5(a)に示したように、棒状の閉塞補助具6と挟持解除操作具7の湾曲部8が当接する輸液バッグ20の連通部26をクリップ部材3で挟持して閉塞し、また、挟持解除操作具7が当接していない部分は、仕切補助シール部25でバッグ本体21の内部が閉塞されているので、輸液バッグ20のバッグ本体21の内部を2つに区画して完全に仕切ることができる。また、輸液バッグ用仕切具1は、挟持解除操作具7によって、輸液バッグ20を2つ折りにした状態に維持することができ、輸液バッグ20をフックに吊り下げる、薬剤の投与ができない状態にあることを外観状の形態から確認することができる。

#### 【0021】

輸液バッグ20から輸液バッグ用仕切具1を取り外す場合、挟持解除操作具7の両端付近をそれぞれ把持して、図5(b)に示したように、挟持解除操作具7を外方向に広げることで、クリップ部材3の挟持部4が広がり、クリップ部材3の挟持を容易に解除することができる。これにより、輸液バッグ用仕切具1による仕切りが解除され、図5(c)に示したように、輸液バッグ20のバッグ本体21を展開して未混合薬剤を混合することができる。

#### 【0022】

なお、挟持解除操作具7の一端には、図6に示したように、輸液バッグ20の口栓30を挿入する口栓挿入穴9が形成され、他端には、口栓30とは反対側のバッグ本体21の端部を保持する鉤部10が形成されていてもよい。これにより、挟持解除操作具7は、輸液バッグ20のバッグ本体21を一定の位置で2つ折りにした状態に維持することができる。

#### 【0023】

図7は、本発明の第2実施形態に係る輸液バッグ用仕切具を輸液バッグに取り付けた状態を示したものである。この輸液バッグ用仕切具1は、第1実施形態と同様に構成された仕切手段2と、布等の柔軟性材料で構成された挟持解除操作具7'ことで構成される。

#### 【0024】

挟持解除操作具7'は、図7に示したように、環状に形成される。挟持解除操作具7'は、図8に示したように、輸液バッグ20のバッグ本体21が2つ折りにされている状態を解除する破断部11を有する。

#### 【0025】

第2実施形態に係る輸液バッグ用仕切具1を用いて輸液バッグ20のバッグ本体21を仕切る場合、まず、棒状の閉塞補助具6を仕切補助シール部25及び連通部26に沿ってバッグ本体21の一方の壁部22に当接させた状態で、一方の壁部22を内側にしてバッグ本体21を2つ折りにする。次に、挟持解除操作具7が連通部26に位置し、かつ、破断部11が連通部26とは反対側に位置するように、挟持解除操作具7をバッグ本体21の他方の壁部23に巻きつける。次に、棒状の閉塞補助具6を当接させた位置で、輸液バッグ20のバッグ本体21をクリップ部材3の挟持空間5に挿入して、クリップ部材3の挟持部4で挟持する。その後、第1実施形態の場合と同様の方法で、輸液バッグ用仕切具1で区画された輸液バッグ20のバッグ本体21の内部に各未混合薬剤を充填する。

#### 【0026】

第2実施形態に係る輸液バッグ用仕切具1も、第1実施形態と同様に、棒状の閉塞補助具6と挟持解除操作具7'が当接する輸液バッグ20の連通部26を、クリップ部材3で挟持して閉塞し、また、挟持解除操作具7'が当接していない部分は、仕切補助シール部

25でバッグ本体21の内部が閉塞されているので、輸液バッグ20のバッグ本体21の内部を2つに区画して完全に仕切ることができる。また、輸液バッグ用仕切具1は、図7, 8に示したように、挟持解除操作具7'の破断部11が破断されていないため、輸液バッグ20を2つ折りにした状態に維持することができ、輸液バッグ20をフックに吊り下げても、薬剤の投与ができない状態にあることを外観状の形態から確認することができる。

### 【0027】

輸液バッグ20から輸液バッグ用仕切具1を取り外す場合、破断部11を破断して形成された分離部分をそれぞれ把持して外方向に広げることで、クリップ部材3の挟持部4が広がり、クリップ部材3の挟持を解除することができる。これにより、輸液バッグ用仕切具1による仕切りが解除され、輸液バッグ20のバッグ本体21を展開して未混合薬剤を混合することができる。なお、クリップ部材3を破断することにより、クリップ部材3の挟持を解除してもよく、その場合、クリップ部材3の破断を容易にするため、クリップ部材3の中央部に破断用の脆弱部を設けるのが好ましい。

### 【0028】

図9は、本発明の第3実施形態に係る輸液バッグ用仕切具を輸液バッグに取り付けた状態を示したものである。この輸液バッグ用仕切具1は、仕切手段2と、一対の硬質の剛性材料で構成された挟持解除操作具7a, 7bとで構成される。

### 【0029】

仕切手段2は、クリップ部材3と閉塞補助具6とからなる。クリップ部材3は、前記第1、第2実施形態のクリップ部材3の挟持部4に、外方に延びる湾曲部4a, 4bを設けたものである。

### 【0030】

閉塞補助具6は、硬質の剛性材料で構成されている。閉塞補助具6は、図9に示したように、薄肉部12で折り畳み可能に連結された半割棒状部材13a, 13bで構成されている。閉塞補助具6は、バッグ本体21の一方の壁部22に当接した半割棒状部材13a, 13bを折り畳んだ状態でクリップ部材3の挟持部4に挟持される。

### 【0031】

一対の挟持解除操作具7a, 7bは、それぞれ細長帯状の硬質の剛性材料で構成され、前記閉塞補助具6の両端に一体的に形成されている。閉塞補助具6及び一対の挟持解除操作具7a, 7bは、硬質のものであれば、鉄等の金属で構成されていてもよいが、取り扱いの安全性を考慮すると、プラスチック材で構成されるのが好ましい。

### 【0032】

本発明の第3実施形態に係る輸液バッグ用仕切具1を用いて輸液バッグ20のバッグ本体21を仕切る場合、まず、閉塞補助具6の一対の半割棒状部材13a, 13bを仕切補助シール部25及び連通部26に沿って一方の壁部22に当接させ、次に、一対の挟持解除操作具7a, 7bの他端に貼着された両面テープ等で一対の挟持解除操作具7a, 7bを輸液バッグ20に固定する。次に、閉塞補助具6の薄肉部12が配置されている位置で、一方の壁部23を内側にしてバッグ本体21を2つ折りにする。次に、閉塞補助具6の半割棒状部材13a, 13bを当接させた位置で、輸液バッグ20のバッグ本体21をクリップ部材3の挟持空間5に挿入して、クリップ部材3の挟持部4で挟持する。その後、第1実施形態の場合と同様の方法で、輸液バッグ用仕切具1で区画された輸液バッグ20のバッグ本体21の内部に各未混合薬剤を充填する。

### 【0033】

第3実施形態に係る輸液バッグ用仕切具1も、第1実施形態と同様に、閉塞補助具6の半割棒状部材13a, 13bが当接する輸液バッグ20の連通部26を、クリップ部材3で挟持して閉塞し、かつ、仕切補助シール部25でバッグ本体21の内部が閉塞されているので、輸液バッグ20のバッグ本体21の内部を2つに区画して完全に仕切ることができる。

### 【0034】

輸液バッグ20から輸液バッグ用仕切具1を取り外す場合、一対の挟持解除操作具7a, 7bの他端付近をそれぞれ把持して、図12(b)に示したように、一対の挟持解除操作具7a, 7bを外方向に広げることで、クリップ部材3の挟持部4が広がり、クリップ部材3の挟持を解除することができる。これにより、輸液バッグ用仕切具1による仕切りが解除され、図12(c)に示したように、輸液バッグ20のバッグ本体21を展開して未混合薬剤を混合することができる。

### 【0035】

なお、クリップ部材3の挟持部4には、図13に示したように、警告シート14が貼着されていてもよい。かかる警告シート14が貼着されていれば、前記輸液バッグ20をフックに吊り下げていても、使用者は、バッグ本体21の内部が未開通である点を容易に確認することができるため、未混合薬剤の誤投与という医療事故を未然に防止することができる。また、閉塞補助具6を構成する半割棒状部材13a, 13bは、硬質の剛性材料で構成され、一端が薄肉部12で折り畳み可能に連結され、他端が挟持解除操作具7a, 7bと一体的に形成された一対のプレート部15a, 15bと、ゴム等の弾性材料で構成され、前記一対のプレート部15a, 15bにそれぞれ一体的に固定された一対の弾性片16a, 16bとからなるものであってもよい。半割棒状部材13a, 13bの弾性片16a, 16bを利用して、図14に示したように、半割棒状部材13a, 13bを、クリップ部材3の挟持部4の両端付近に把持させた状態で挟持し、バッグ本体21の内部を閉塞することができる。

### 【図面の簡単な説明】

#### 【0036】

【図1】本発明の第1実施形態に係る輸液バッグ用仕切具の分解斜視図である。

【図2】図1の輸液バッグ用仕切具を輸液バッグに取り付けた状態を示す側面図である。

【図3】図1の輸液バッグ用仕切具を輸液バッグに取り付けた状態を示す斜視図である。

【図4】輸液バッグの正面図である。

【図5】(a)は、図1の輸液バッグ用仕切具を取り付けた状態の輸液バッグの断面図であり、(b)は、図1の輸液バッグ用仕切具を取り外した状態の輸液バッグの断面図であり、(c)は、バッグ本体を展開した状態の輸液バッグの断面図である。

【図6】他の実施例を示す挟持解除操作具で構成された第1実施形態に係る輸液バッグ用仕切具を輸液バッグに取り付けた状態を示す斜視図である。

【図7】本発明の第2実施形態に係る輸液バッグ用仕切具を輸液バッグに取り付けた状態を示す側面図である。

【図8】本発明の第2実施形態に係る輸液バッグ用仕切具を輸液バッグに取り付けた状態を示す斜視図である。

【図9】本発明の第3実施形態に係る輸液バッグ用仕切具の分解斜視図である。

【図10】図9の輸液バッグ用仕切具を輸液バッグに取り付けた状態を示す側面図である。

【図11】図9の輸液バッグ用仕切具を輸液バッグに取り付けた状態を示す斜視図である。

【図12】(a)は、図9の輸液バッグ用仕切具を取り付けた状態の輸液バッグの断面図であり、(b)は、図9の輸液バッグ用仕切具を取り外した状態の輸液バッグの断面図であり、(c)は、バッグ本体を展開した状態の輸液バッグの断面図である。

【図13】図9の輸液バッグ用仕切具を輸液バッグに取り付けた状態を示す斜視図であり、クリップ部材に警告シートを貼着したものである。

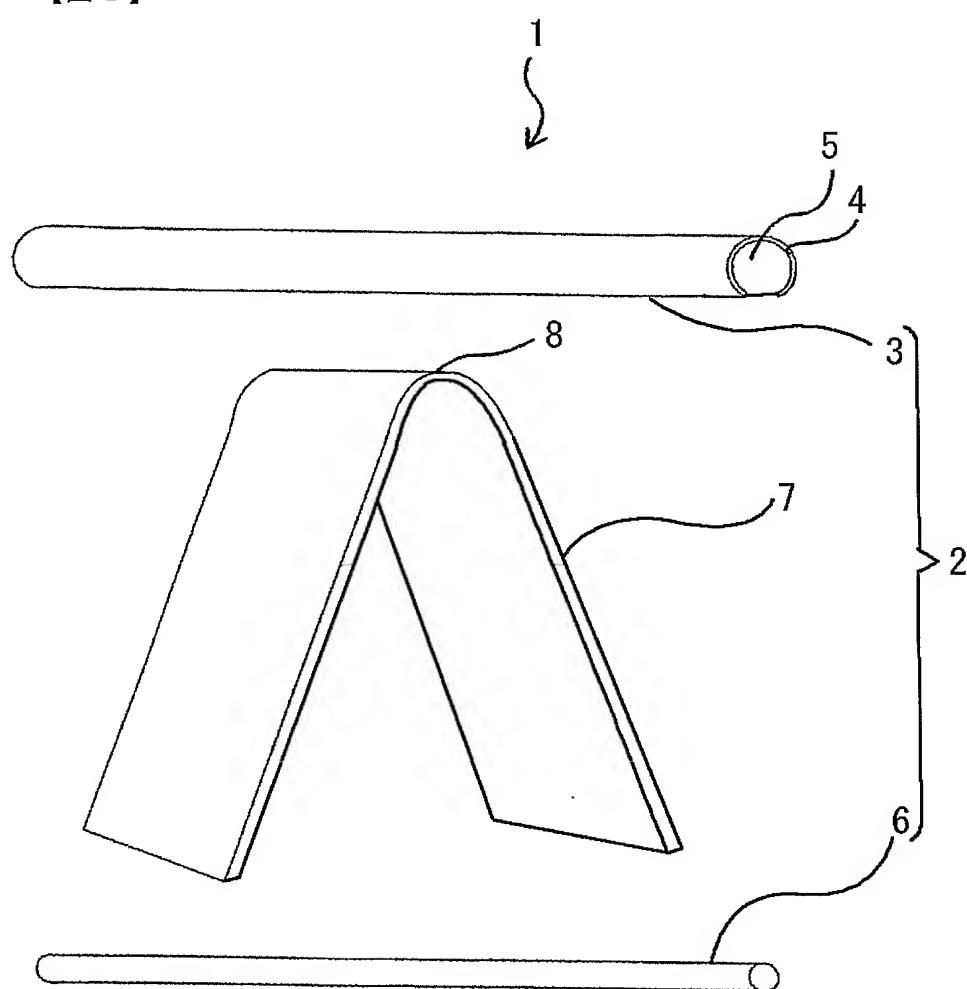
【図14】他の実施例を示す図9の閉塞補助具をクリップ部材に挟持した状態の輸液バッグの部分拡大断面図である。

### 【符号の説明】

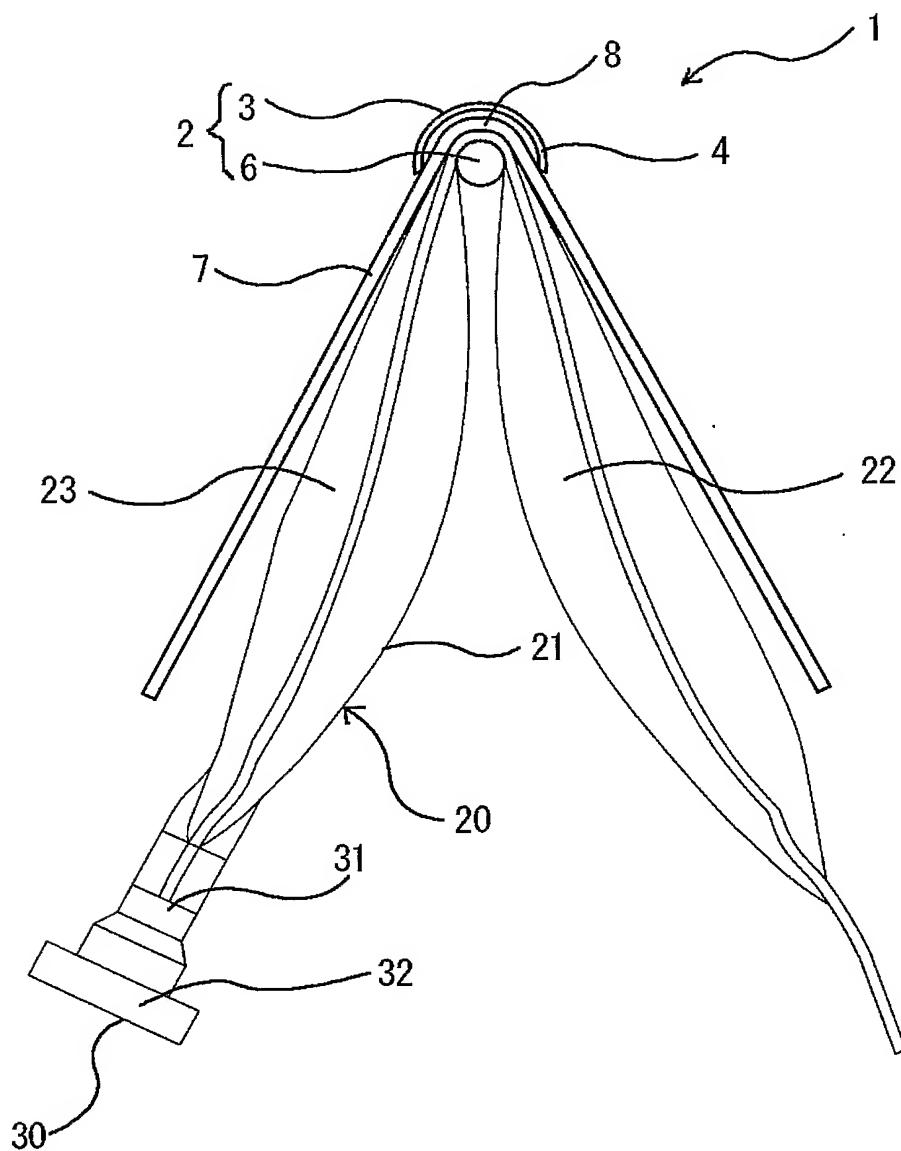
#### 【0037】

- 1 輸液バッグ用仕切具
- 2 仕切手段
- 3 クリップ部材
- 4 挟持部
- 5 挟持空間
- 6 棒状部材
- 7, 7', 7a, 7b 挟持解除操作具
- 8 挟持解除操作具の湾曲部
- 9 口栓挿入穴
- 10 鉤部
- 11 破断部
- 12 薄肉部
- 13a, 13b 半割棒状部材
- 14 警告シート
- 20 輸液バッグ
- 21 バッグ本体
- 22 一方の壁部
- 23 他方の壁部
- 24 周辺強シール部
- 25 仕切補助シール部
- 26 連通部
- 30 口栓
- 31 薬剤排出管
- 32 薬剤排出口

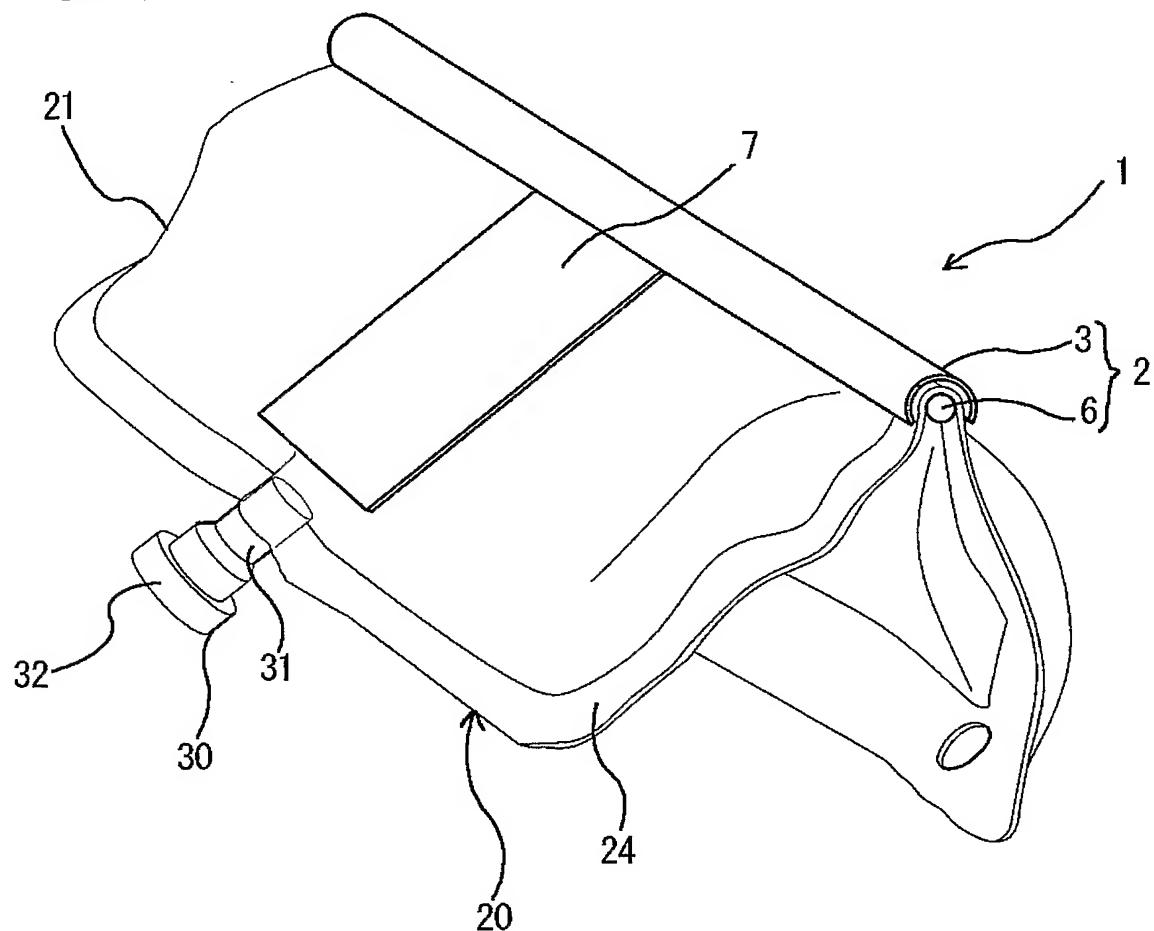
【書類名】 図面  
【図 1】



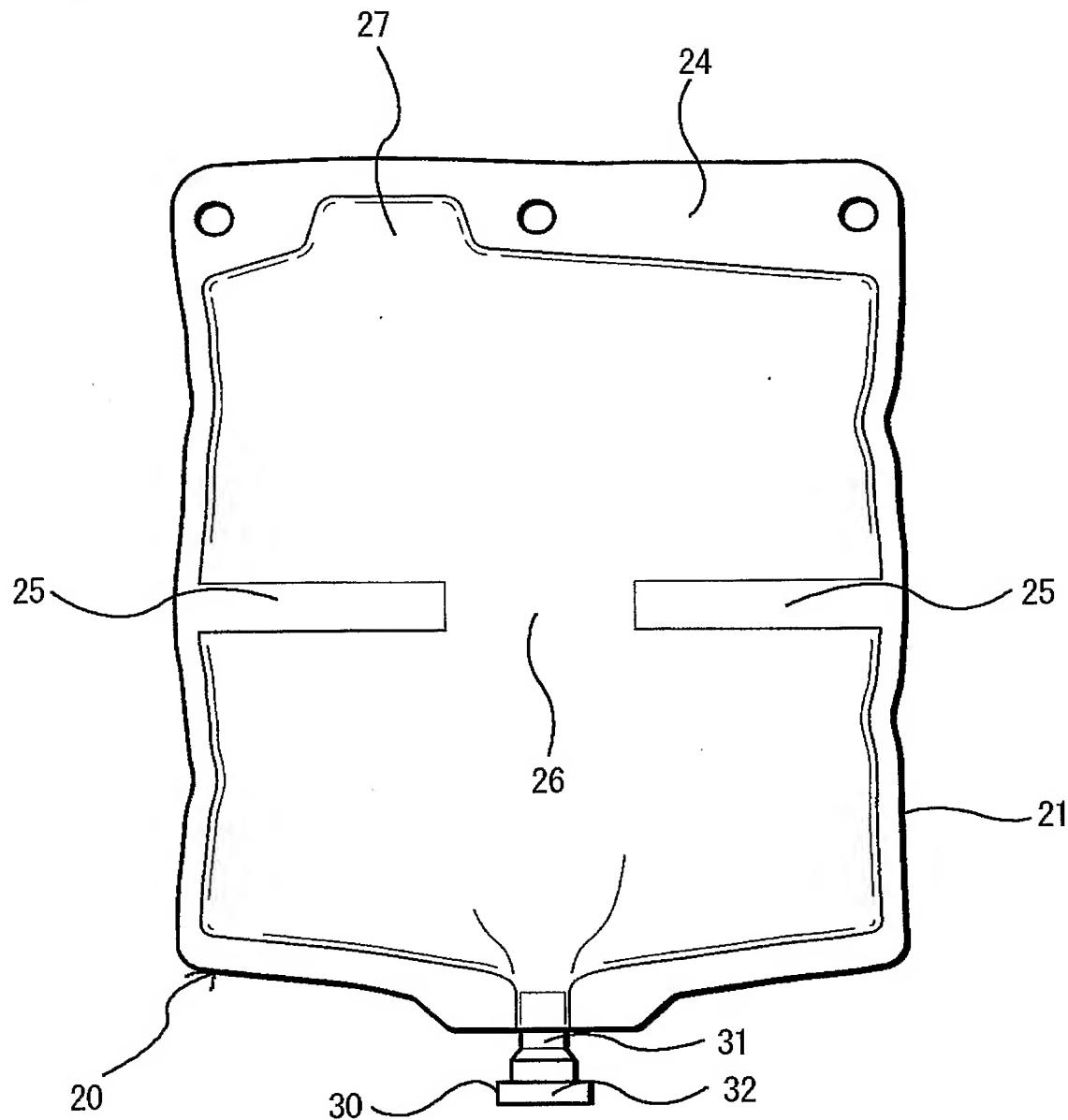
【図2】



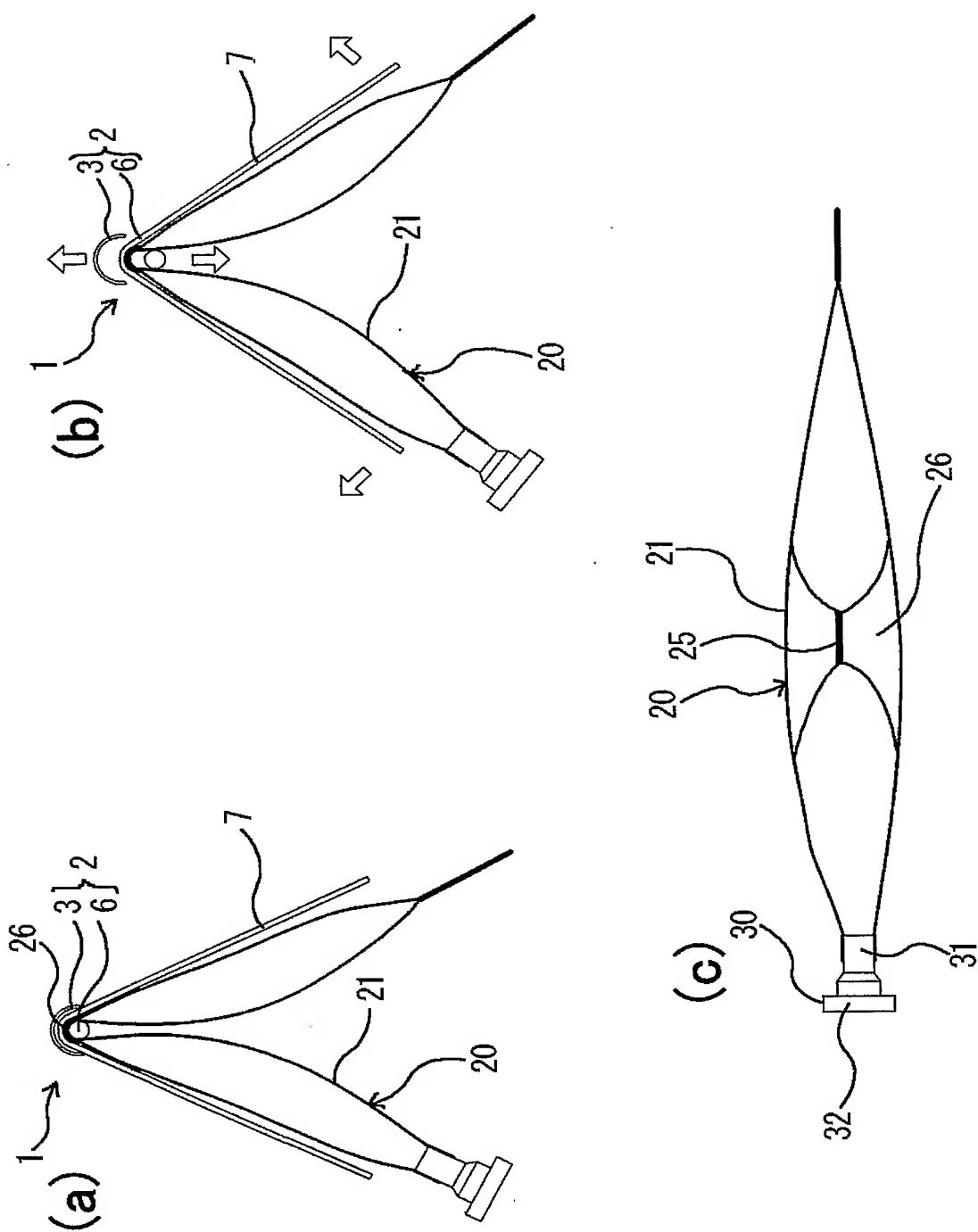
【図3】



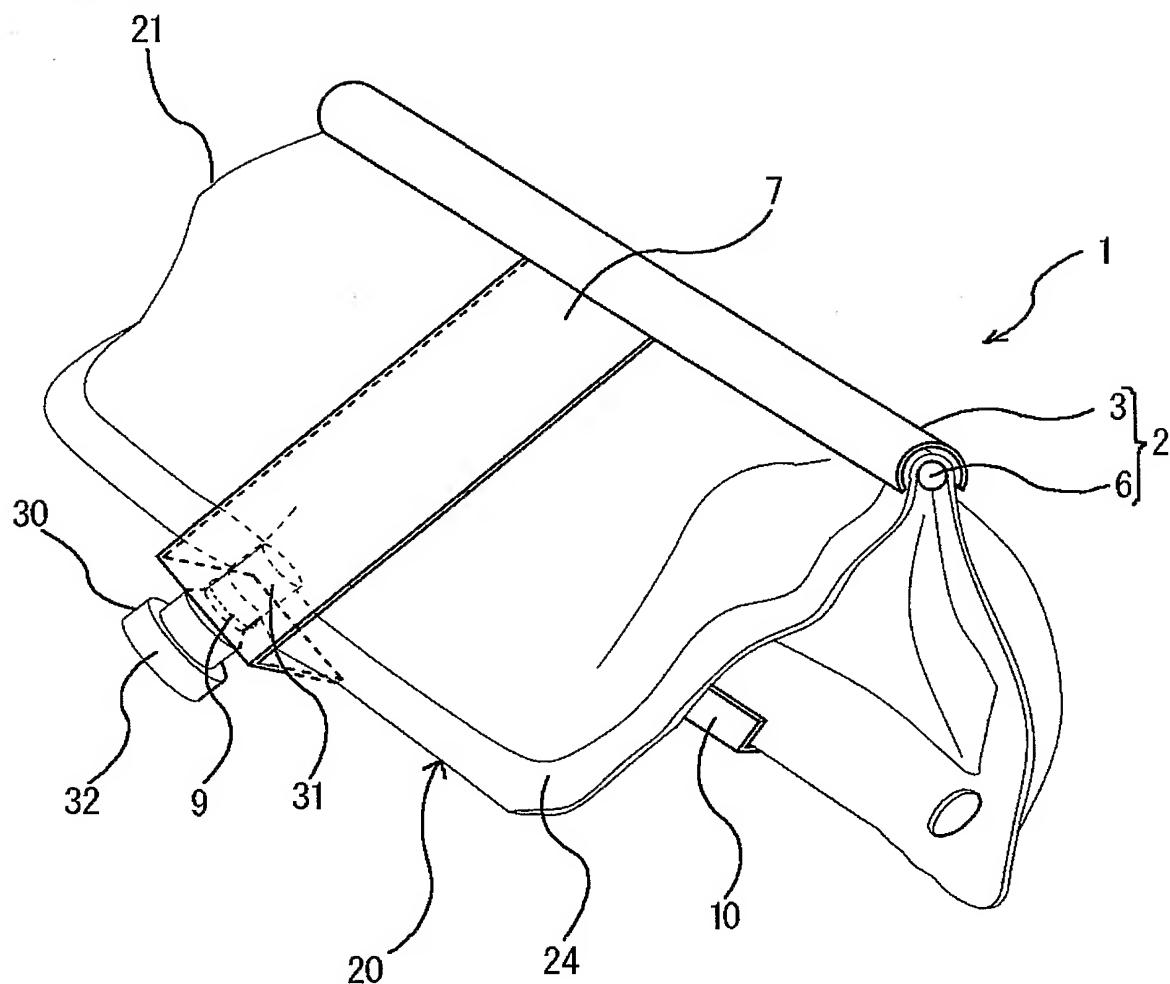
【図4】



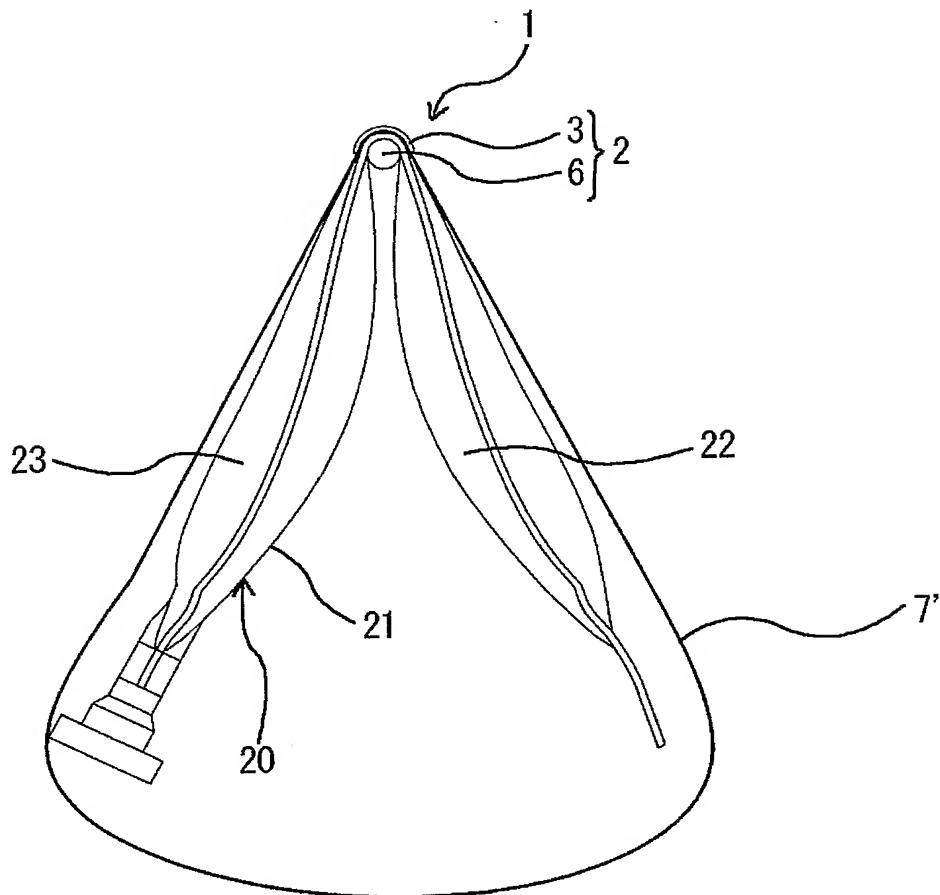
【図5】



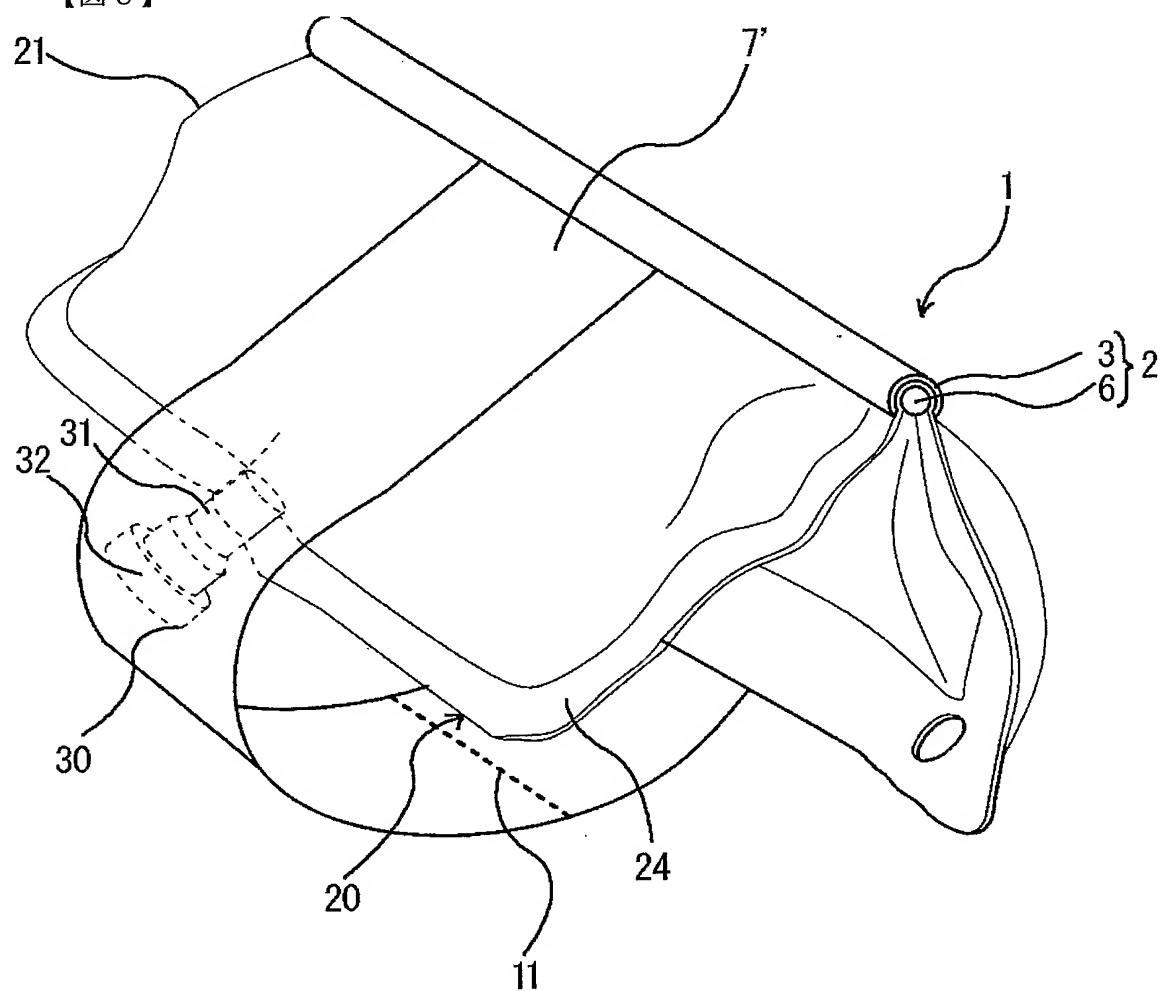
【図6】



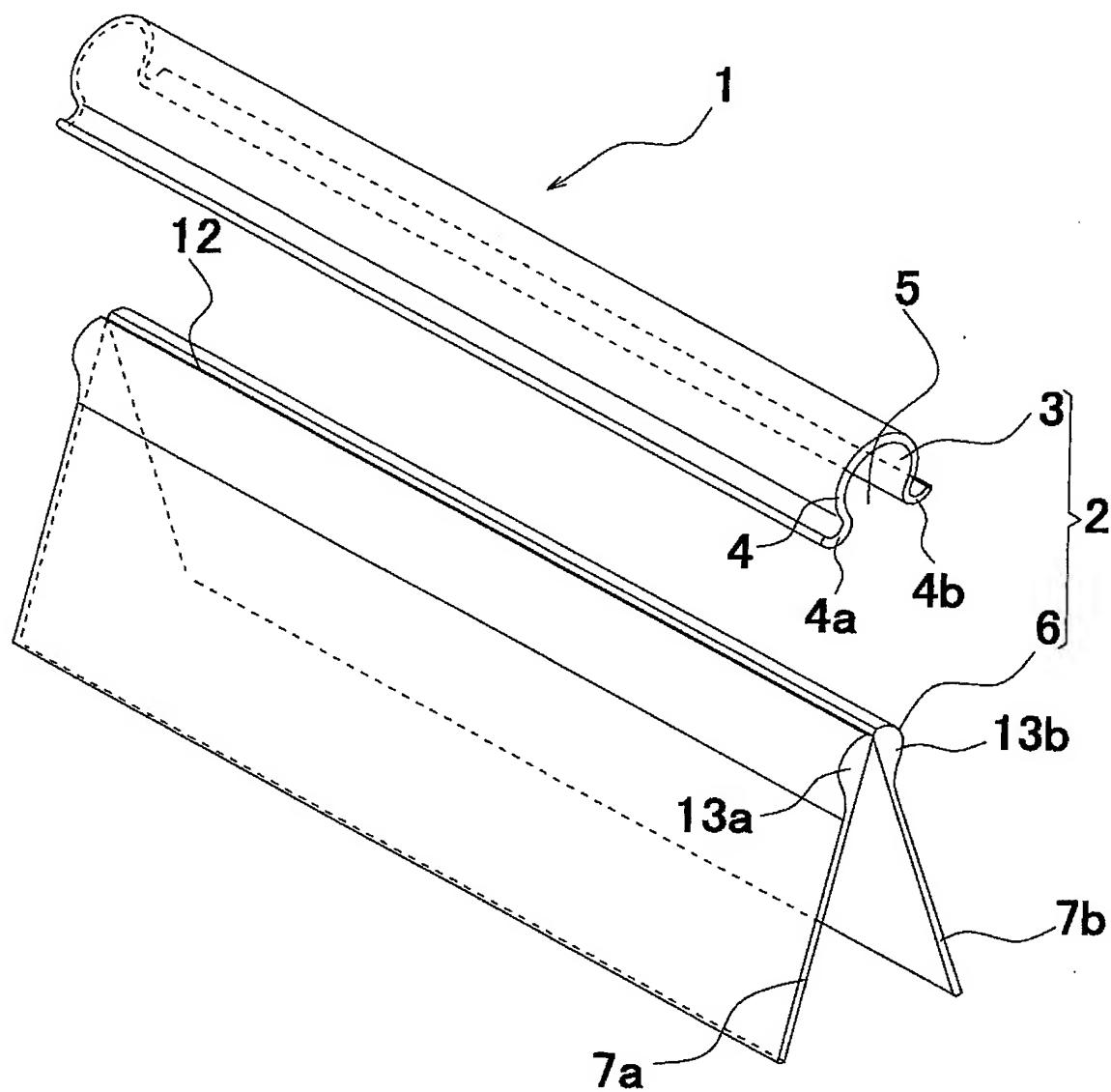
【図 7】



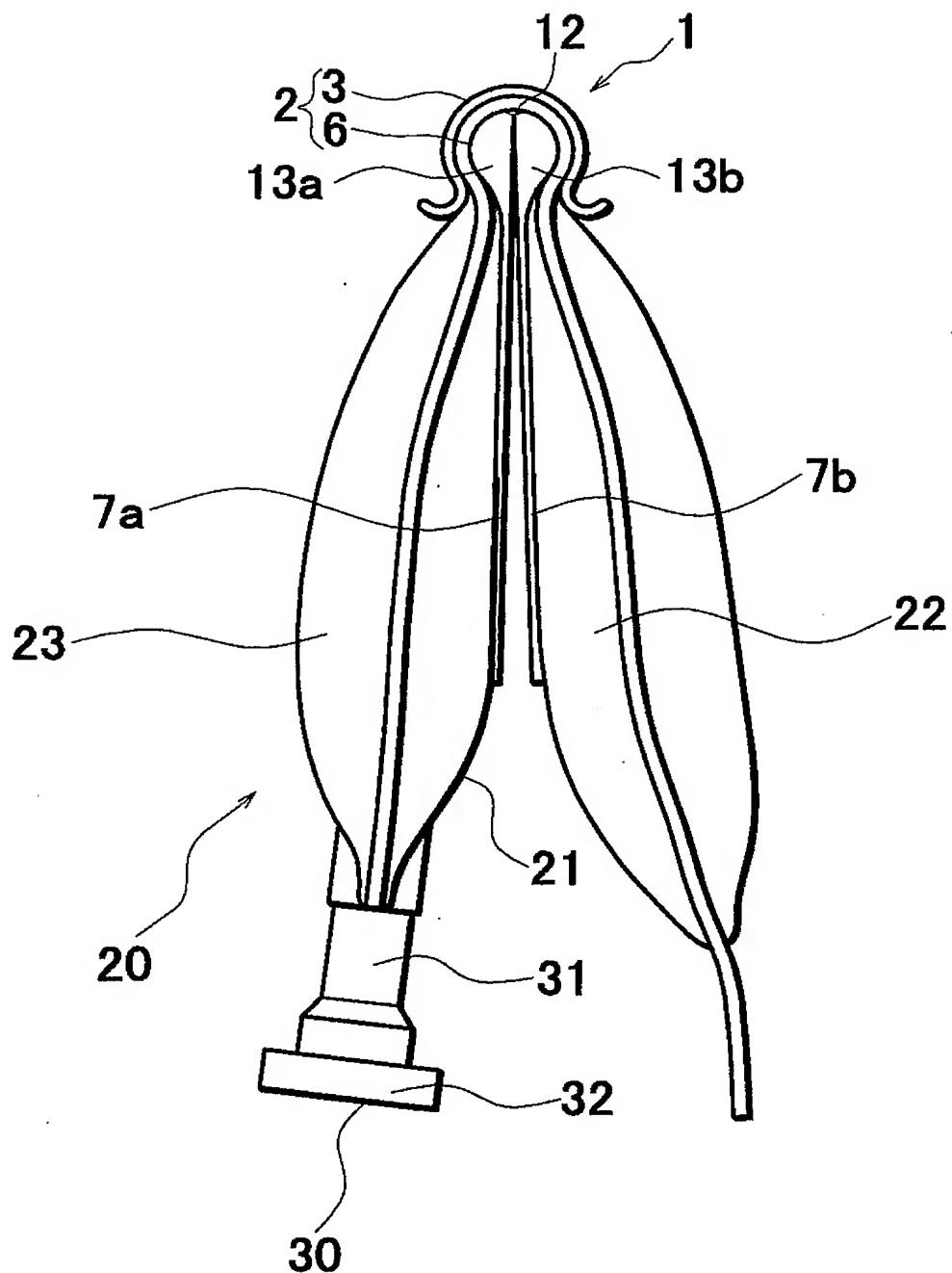
【図8】



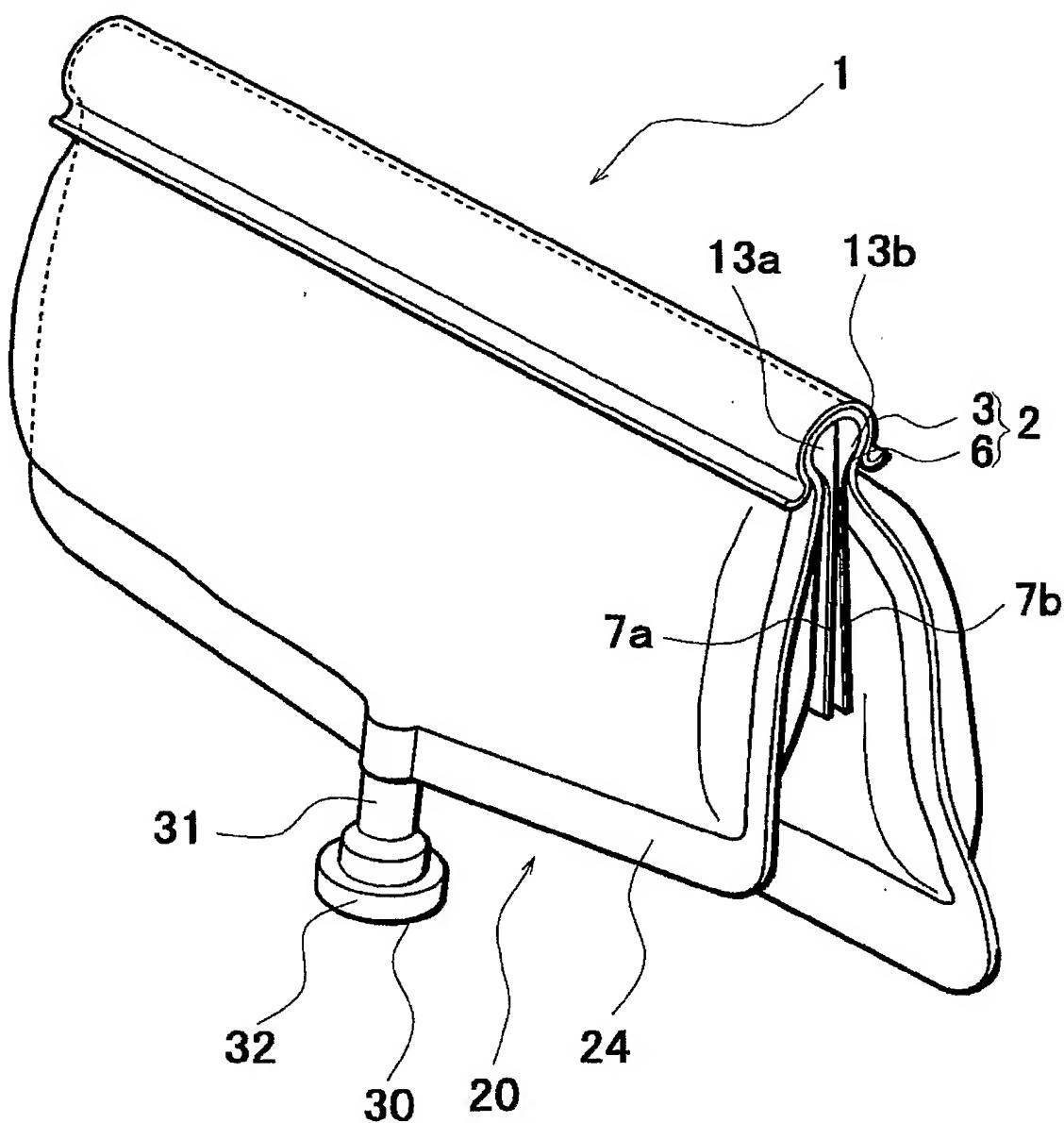
【図9】



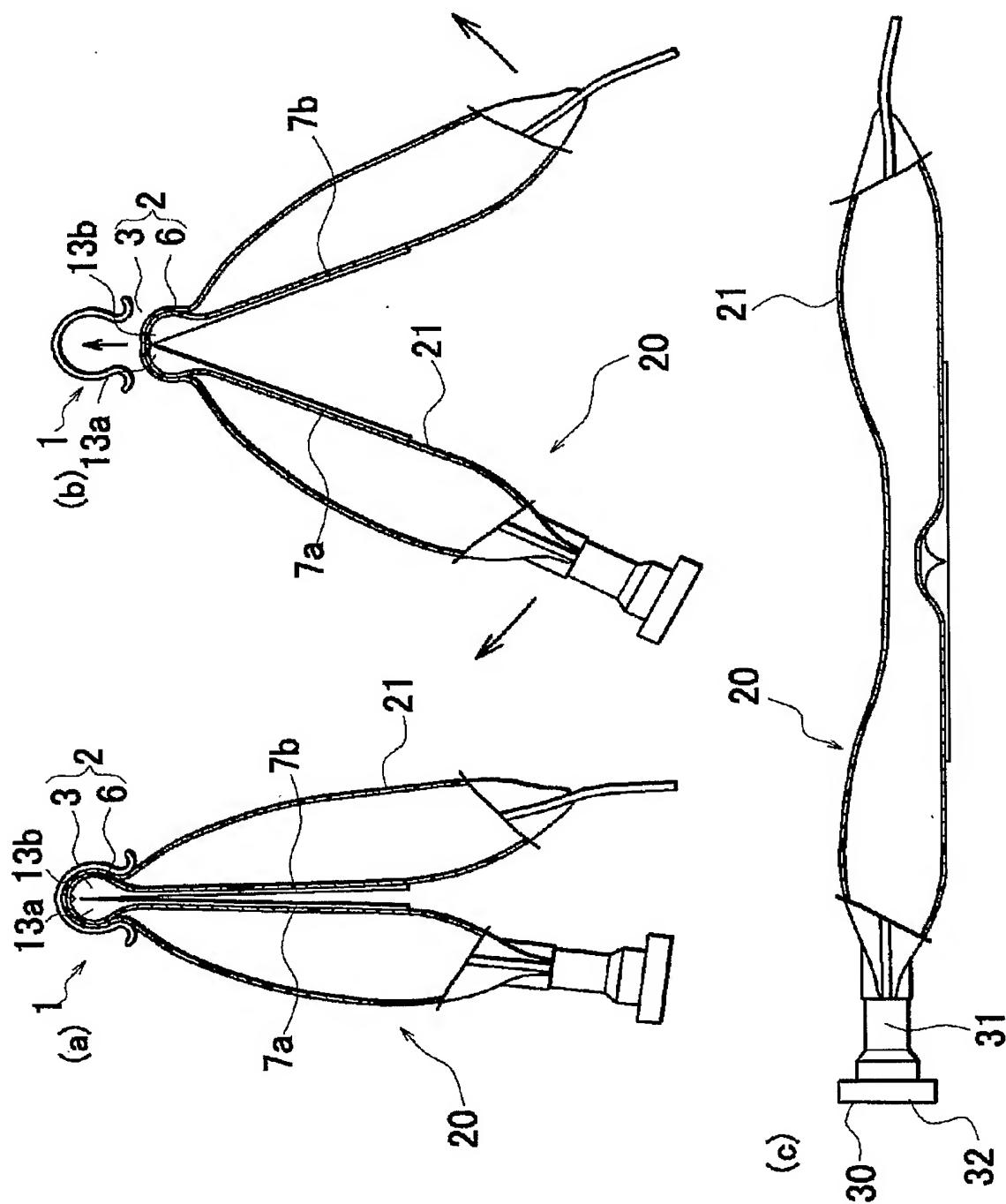
【図10】



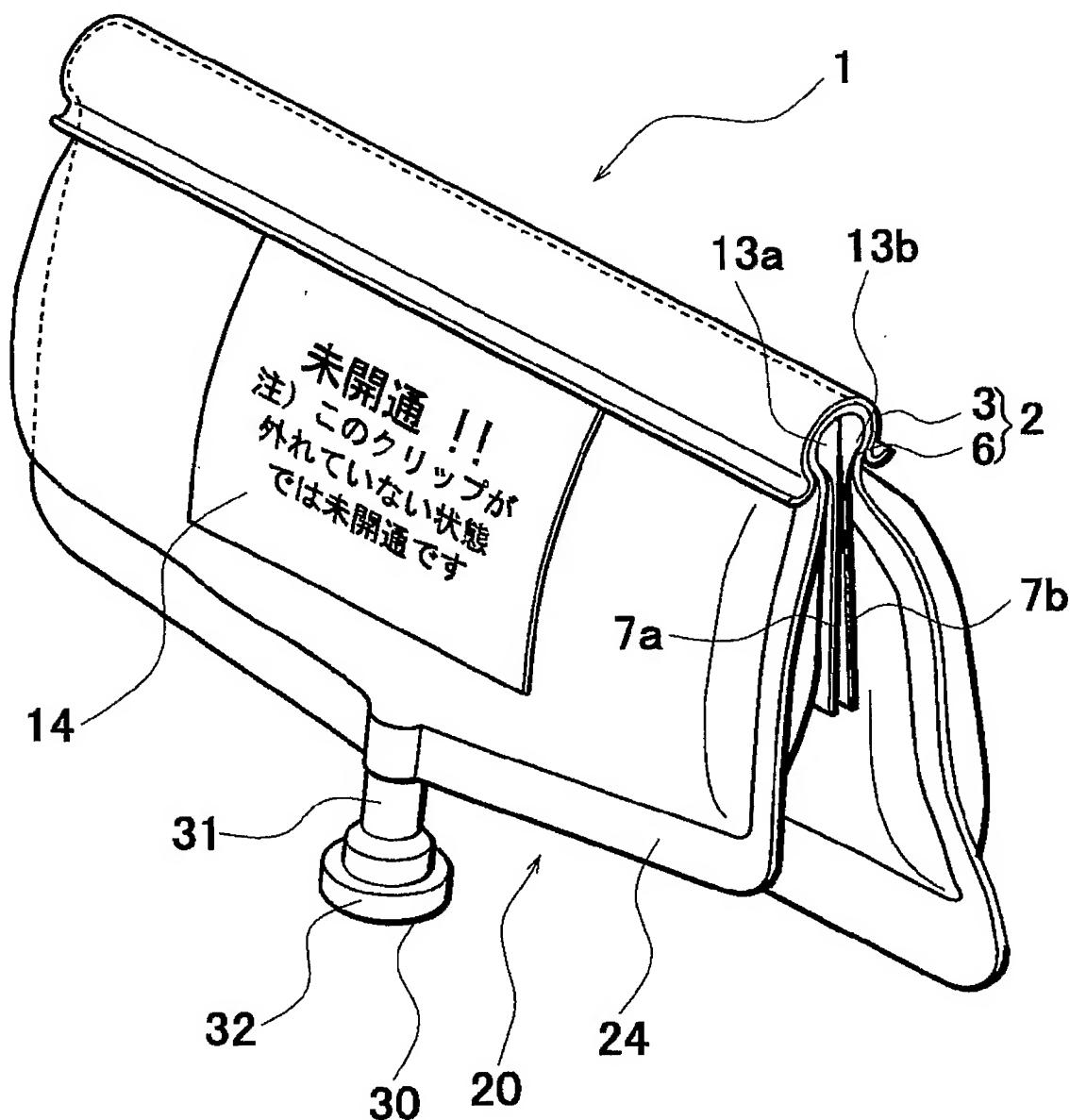
【図11】



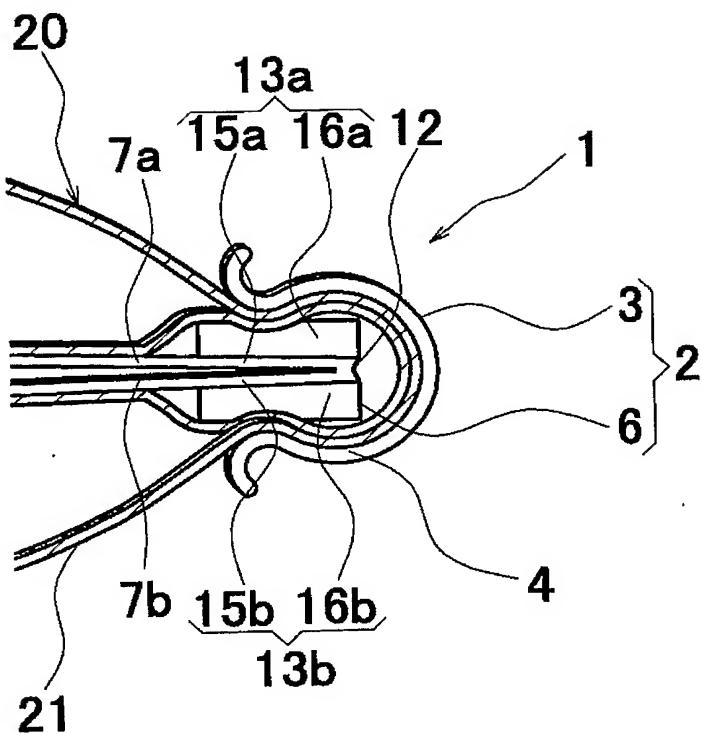
【図12】



【図13】



【図14】



【書類名】要約書

【要約】

【課題】 クリップ部材の挟持力の強弱に関係なく、輸液バッグのバッグ本体の一方の壁部に当接される閉塞補助具を容易に取り外すことができる輸液バッグ用仕切具を提供する。

【解決手段】 輸液バッグ20のバッグ本体21の一方の壁部22に当接される閉塞補助具6と、前記輸液バッグ20のバッグ本体21の他方の壁部23から前記閉塞補助具6を挟持して前記バッグ本体21内部を閉塞するクリップ部材3とからなる仕切手段2と、前記クリップ部材3の挟持を解除する挟持解除操作具7とで構成された。

【選択図】 図2

特願 2004-227992

出願人履歴情報

識別番号 [000238201]

1. 変更年月日 1990年 8月 8日

[変更理由] 新規登録

住所 大阪府大阪市中央区道修町1丁目7番10号  
氏名 扶桑薬品工業株式会社

特願 2004-227992

出願人履歴情報

識別番号 [503443094]

1. 変更年月日 2003年12月 2日

[変更理由] 新規登録

住 所 徳島県徳島市北田宮2-1-51  
氏 名 岡久 稔也